

# 長久手生まれ長久手育ちの市議会議員 山田けんたろう活動報告

みらい  
通 信  
2019 夏 号



故郷 長久手市のため 真っ直ぐに！！ Vol.13



ジョグパトでおなじみの  
山田けんたろうです。



## 議 会 報 告

第2回定例会 山田けんたろう 一般質問  
会期日程：令和元年6月13日～7月5日

6月18日（火）に一般質問  
（個人質問）に登壇しました。

### 誰もがいきいきと安心して暮らせるまちについて

#### 子どもや歩行者を交通事故から守るために

- ◆市内の交差点や歩道等に、防護柵やガードレールの未整備箇所や整備が必要と判断される箇所はあるか。◆必要と判断される場合は今後整備して行くか。
- ◆ゾーン30の導入拡大に関して市の考えはどのようなか。◆各小学校区にゾーン30の拡大を行い、また、保育園の周辺にはキッズゾーンを設けないか。
- ◆ゾーン30、キッズゾーンをはじめ交通規制を導入することに関して支障は何か。◆現場へ出向き、現場の声を聴き、地域に寄り添う、市民、警察、行政を結ぶ交通対策担当の職員を設けないか。

#### ＜ 執行部の主な答弁 ＞

市道で横断歩道が設置されている信号交差点は、ガードレール等の防護柵は整備済みである。今後は要望に応じて検討する。ゾーン30は、生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、市内では東名高速道路南側の市が洞地区に導入している。ゾーン30をはじめとする交通規制には、警察との協議や規制を受ける地域の同意が必要となる場合もあり、それらが課題であると認識している。キッズゾーンは、滋賀県大津市で発生した散歩中の園児を巻き込む交通事故等を受け、未就学児童が活動する地域であることをドライバー等に知らせるため、国で導入が検討されている交通安全対策と認識しています。本市での導入については、今後、国の動向を注視していく。専門の交通対策担当の職員を配置することは考えない。

#### ＜ けんたろうの質問意図 ＞

ゾーン30をはじめとする交通規制には、警察との協議や規制を受ける地域の同意が必要となり、それが課題です。現場へ出向き、現場の声を聴き、地域に寄り添う、市民、警察、行政を結ぶ交通対策担当の職員を設けないか。それが第6次長久手市総合計画「長久手未来図」にある地域に向き地域の課題を市民と解決に向け支援する職員ではないのか。また、「キッズゾーン」の導入を、大津市は検討しています。ご存じの通り滋賀県大津市では2019年5月8日、園外活動中だった保育園児2名が亡くなる痛ましい交通事故が発生しました。これを受け、大津市は保育園・幼稚園における散歩ルートなどの安全点検を進めつつ、さらなる対策として「キッズゾーン」の設置を政府に働きかけ、**私がこの質問と要望を行った同日の6月18日、政府は緊急の関係閣僚会議を開き、保育園や幼稚園の周辺に車の通行規制などをとする「キッズゾーン」を新たに設ける方針を固めました。**従来の「スクールゾーン」「ゾーン30」は、小学校における通学路の安全を確保するための施策です。基本的に小学校から半径500m程度の通学路が対象で、通学時間帯にはクルマの乗り入れを禁止するといった交通規制を敷くことがあるほか、路面標示や標識、電柱の看板などで「スクールゾーン」であることをわかりやすく示し、ドライバーに注意を促すケースが見られます。「キッズゾーン」は、小学校の通学路の「スクールゾーン」と同様に、園児の安全対策を重点的に行うエリアです。**園児の登園や退園の時間帯に、車両の通行禁止や速度規制などができるほか、横断歩道やカーブミラーの新設、路面標示などが強化されます。何よりも自治体ごとに地域の特性に合わせた規制を行うことができます。**歩車分離の文化の違いがあるヨーロッパでは、古くから馬車の歴史があり、近代になるとクルマの往来が増えていったので自然と歩車分離の歴史がありました。近年では、市街中心部へのクルマの流入を規制する動きが活発化しています。日本は街道を徒歩で往来する歴史であり、近代化にともない自動車文化が一気に押し寄せたため、車優先社会、歩車分離が進まなかったと、私は分析します。日本でも、国が進める「スマートシティ構想」のなかで、歩車分離を含めた都市構想が進められます。保育園、幼稚園周辺への「キッズゾーン」の導入、市内全小学校の周辺および通学路の「スクールゾーン」「ゾーン30」の導入を強く要望致しました。



キッズゾーン  
(イメージ図:提供 大津市)

#### 子どもの見守りについて

- ◆本市の小学生の登下校時の見守りの状況はどのようなか。◆見守りにご協力頂く市民に対不審者、対交通等に関して共通の対応等を学ぶ講習、研修等の機会を設けないか。◆市長が市民協働の第一歩として掲げる「役割のあるまち」として警察官、自衛官のOBの方に見守りに参加頂く機会を設けないか。
- ◆東京都品川区では、児童見守りシステム（まもるっち）を導入している。長久手市も研究、導入しないか。

#### ＜ 執行部の主な答弁 ＞

地域のボランティアやPTA等、多くの市民により見守り活動が行われていると認識している。先日発生した川崎市児童殺傷事件や昨年発生した新潟市小2殺害事件等、小学生の見守り活動を取り巻く状況は変化しており、見守り活動を行ううえで、防犯や交通安全に関する知識は必要と考える。今後、見守り活動をされている人が、知識の習得ができる機会を検討する。警察官や自衛官が持つ専門的な知識は、見守り活動を行ううえで、有意義であるものと考えます。今後、どのような参加方法があるか等、調査及び研究する。東京都品川区の児童見守りシステムは、携帯端末のボタンを緊急時に押しと防犯ブザーが鳴り、その位置情報をもとに、関係機関と連携しながら子どもを保護するというものです。この見守りシステムのメリット及びデメリットも含め、調査及び研究する。

#### ＜ けんたろうの質問意図 ＞

東京都品川区の児童見守りシステム（まもるっち）は、地域の支えあい・助け合いによる安全・安心なまちづくりの実現を目的とする、品川区独自の防犯システムです。システムは必ずしも犯人の撃退やお子様の安全を保障するものではなく、地域で児童を見守り、万 one の場合は児童の保護や付近の状況確認をお願いするものです。

登下校中における児童生徒等の安全確保については、昨年、平成30年5月に新潟市において、下校中の児童が被害に遭う痛ましい事件が発生しました。それを受けて、登下校時の子供の安全確保に関して、関係閣僚会議が開かれ「登下校防犯プラン」が取りまとめられ、国から各自治体迄対応策が求められたところではありますが、またしても、本年5月、神奈川県川崎市において痛ましい事件が起きてしまいました。

事件を受け、5月29日に「登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議」が開かれさらなる対応策が求められているところであります。

これまで数々の対策が取られてきましたが、どうしても児童が一人になってしまう時間や通学路も発生してしまいます。東京都品川区の児童見守りシステム（まもるっち）が全てとは言いませんが、学校で行って頂いている指導やセルフディフェンス講座の対応では難しい時期に来ている。

長久手市に見合った新しいやり方で、児童、生徒、子どもたちを少しでも危険から守る取り組みを強く要望致しました。



児童見守りシステム まもるっち  
(提供 東京都品川区)

# 観光交流まちづくりの推進について

◆ジブリパーク開業に関して長久手市としてメリット、デメリットをどのように捉えているか。◆ジブリパーク開業に際して長久手市は愛知県に対して何を求めるか。◆ジブリパーク開業を契機とした観光交流の推進をどのように行っていくか。◆新城名古屋藤が丘線「山の湊」号と連携し観光を基軸とした経済の相乗効果をはからぬか。◆ジブリパーク開業に伴い古戦場公園へ外国の方も訪れると見込まれる。大学連携をいかし外国の方向けの通訳を大学生が行ない、古戦場公園のコンセプトにある市民参画型運営のひとつとしないか。◆リニモの主要駅に長久手市の特産品やジブリパークの品を扱う「長久手市版キヨスク」のような小型売店を出店し、ジブリパーク開業を契機に潤う長久手市のひとつとしないか。

## ◀ けんたろうの質問意図 ▶



ジブリパーク開業に関して、愛知県から長久手市に対して何らかのアクションはあったのか。ジブリパークの計画は長久手市ではなく愛知県の取り組みである。しかし、会場となるモリコロパークがあるのは長久手市です。毎日のようにジブリパークの報道を目に、耳にしますが、長久手市は蚊帳の外にされているような違和感があります。これを長久手市としてどう認識しているか。

愛知県はジブリパークの開業を2022年の秋としています。2005年の愛・地球博覧会の記憶もまだ消えぬ市民、薄れ始めている市民、当時を知らない新しい市民もおみえであると思いますが、愛知万博の当時は、半年間の開催でありましたが、ほとんどの市民は、交通渋滞等、苦勞された面が大きいと、私は記憶しています。市民の納得を得られるよう、長久手市や地元へのメリットを開業地の長久手市として強く愛知県に求めるべきではないか。

例えば、まずは新設道路の整備や未開通の瀬戸大府東海線の早期開通、力石・名古屋線や田糲・名古屋線の既設県道の拡張、公園西駅周辺地区への生活利便施設の誘致等、ジブリパークに隣接する公園西駅街区、三ヶ峯地域への協力、都市基盤整備に関しての部分が大きいです。長久手市の単体でできなかった部分への協力を強く求め、**市民へは、ジブリパークが来るとこんなにも良いことがあると、良い材料や特需、市の財政にプラスになる施策をもって示し、長久手市からは愛知県に対し強い姿勢で開業条件を示すべきではないかと強く要望致しました。**



グリーンロード渋滞時の写真

## その他の一般質問

### ■ 長久手市安心メールについて

- ◆現在の登録者数はどのようなか。◆配信の流れはどのようなか。
- ◆効果検証は行われているか。◆将来目指すべきものはどこか。



### ◀ 執行部の主な答弁 ▶

本年5月末現在の安心メールの登録者数は7,981人。安心メールについて、効果検証は行っていない、防犯等に関する情報を多数の市民へ速やかに周知するツールとして有効であると考え。今後も新規登録をお願いし、一人でも多くの人に登録していただくことを目指す。

### ■ 長久手市自転車の安全利用の促進に関する条例は市民へ浸透しているか。

長久手市自転車の安全利用の促進に関する条例は、平成30年12月に施行した。条例を広く市民に周知するため、広報やホームページへの掲載のほか、関係する大学及び高等学校への啓発チラシ配布、また、交通安全キャンペーンや講習会等で周知を行っている。

### ■ 長久手市ブロック塀等撤去費補助事業について

- ◆これまでの実績はどのようなか。◆将来目指すべきものはどこか。

本補助事業の将来目指すべきものは、補助金を活用していただくことで、市民の生命、身体及び財産を地震による災害から保護するため、道路等に面して設置された市内の危険なブロック塀等を減らすことである。

### ■ 子どもを取り巻くインターネット環境について

- ◆子どもを取り巻くインターネット環境についてどのような問題意識を持っているか。
- ◆スマートフォン利用によるトラブルや被害の報告はあるか。◆現在はどのような対応をし、今後はどのような対策を施していくか。
- ◆愛知県では保護者、教職員、児童・生徒、その他子どもたちを見守る立場にある大人に向けた「実践みんなのネットモラル塾」や児童、生徒向けの講座を実施している。長久手市もこれに取り組まないか。



出展:「実践!みんなのネットモラル塾」HP

## 水難救助訓練 視察報告

前任期に引き続き、本任期も尾三消防組合議会議員を拝命しました。令和元年6月10日、尾三消防本部 令和元年度 水難救助訓練に昨年同様視察参加させて頂きました。訓練場は、愛知用水の調整池であり、みよし市、日進市、東郷町にかかり、ちょうど愛知県の中心に位置する『愛知池』で行われました。

長久手市では、大きな『水害』の起こる地域は想定されておられません。夏を迎え、水が身近になる季節であることや、近年多発するゲリラ豪雨や、線状降水帯の影響による長期の豪雨では、いつでも『水難』が起きてもおかしくありません。

水難事故における救助技術の向上及び資機材取扱いの習熟はもとより、規律を重視した小隊活動を基礎とし、指揮統制及び各隊の連携強化及び活動体制の能力向上を図ることを目的として行われました。訓練想定は、「長久手市内の池の棧橋からバスが落ちそうになっている。バスの乗客数名が池に落下し溺れている」というものでした。

今回の訓練に参加する各署隊員に対し事前の情報は一切伝えられない「ブラインド型訓練」という実際の出動を想定した訓練方法が取られ、本番さながらで、訓練とは解っていても大変に緊張感のあるものでした。

水没者には「やまだて」という捜索手法がとられ、通報者、関係者と消防士が2方向から目測を立て、そこをダイバーの救助隊員が潜り捜索し救助しました。当日は雨天で水の濁りもあり本当に難しいものであると感じ、また、潮の流れや濁りのある海や強い流れや岩などがある河川での捜索は本当に難しいものであると感じました。水難に対する救助隊員や救命ボートは尾三消防本部管内の5市町すべてに配備され、これからの季節は常にボートには空気を入れ、必要資機材は備え常時水難救助にあたる形で出動体制が取られているそうです。

今回は、長久手市内の池での水難事故想定でしたが、**昨年4月の消防広域化により、5市町(豊明市、みよし市、東郷町、日進市、長久手市)の消防がひとつとなったことにより、いざと言うときには、近隣市町の相互応援協定に頼り調整する間もなく『×5倍の』水難救助力がすぐに駆けつけることができる消防救命力のスケールメリットを実感しました。**尾三消防本部の皆様、雨天、寒いなか早朝よりお疲れ様でした。視察や組合議員の務めを通じて、消防の皆様の日頃のご尽力を市民へお伝えすることも私の役割です。



水難救助訓練の様子

視察報告はホームページにも掲載しています。写真も複数ありますのでぜひご覧ください。  
<https://yamada-kentaro.com>



本活動報告書の発行に際し政務活動費(年額12万円)は使用していません。

## 山田けんたろう プロフィール

長久手生まれ 長久手育ちの45歳  
長久手市 喜婦嶽出身  
長久手市議会議員 2期

長湊東保育園~長久手西小学校~長久手南中学校 卒  
名古屋市内の高校へ進学、大学では建築学を専攻

- 総務くらし建設委員会 副委員長
- 尾三消防組合議会議員
- 尾三消防組合議会 議会運営委員会 委員
- 長久手市都市計画審議会委員
- 自民党愛知県支部連合会 青年局
- 自民党長久手支部 青年局
- 長久手市商工会 青年部
- 長久手市郷土史研究会
- 長久手ランニングクラブ
- (一社)愛知中央青年会議所 第33代 理事長
- 第41回 JC青年の船「とうかい号」チームリーダー
- 第49回 名古屋まつり 第30代 織田信長役
- ◇ 家族 妻と子2人(1男1女の父)
- ◇ 趣味 ジョグパト トレーニング 映画鑑賞

## 活動実績

- ジョギングパトロールの導入
  - 乗り合いタクシー実証実験の導入
  - 公園西駅周辺地区 設計変更 (生活利便施設 誘致可能に)
  - 就労支援コーディネーターの配置
  - あったかあどの普及、サービス拡充
  - 高齢者の消費生活保護対策
  - N-バスのダイヤ、ルートの提案導入
  - 自転車条例に保険加入を提案導入
  - 市内各所の交通安全対策は即行動
- など

長久手市議会議員 山田けんたろう 発行  
(長久手市喜婦嶽)

市民の皆様のお声をお待ちしています。  
お気軽にお声がけ下さい。

Web <https://yamada-kentaro.com>

E-Mail [nagakute@yamada-kentaro.com](mailto:nagakute@yamada-kentaro.com)

TEL 0561-63-6688 (携帯電話へ転送有)

FAX 62-0370



Facebook  
LINE  
Instagram

毎日更新中



山田けんたろう  
ホームページ